



手と手

やさしさ
100パーセント

第14回曾於市社会福祉大会福祉ポスター 高校生の部
最優秀賞
作品名「思いやりのLIFE」

鹿児島県立曾於高等学校

二年 東 ひがし はるな 晴菜さん

鹿児島県立曾於高等学校

二年 湯前 ゆま えみゆき 美幸さん



主な内容

新年のあいさつ	P 2
共同募金イベント募金ボランティアに参加して	P 3
児童・生徒のふれあいボランティア活動事業より	
長崎県島原市霊丘地区民生委員児童委員研修受入	P 4
大分県豊後大野市民生委員児童委員協議会研修受入	
島原市地区社会福祉協議会研修受入	
赤い羽根共同募金映画会、障がい者レクリエーション大会	P 5
子ども食堂の紹介、子ども食堂連絡会	P 6
お掃除サポート事業を利用して、月野持留地区イルミネーション	P 7
介護保険 Q&A、地域包括支援センターより	P 8
各種相談窓口のご案内、社会福祉相談援助実習を終えて	P 9
寄付金品等報告	P 10

理念 人と人との
つながりを大切に
地域と共に歩む

発行 / 社会福祉法人 曾於市社会福祉協議会
曾於市財部町南俣 504 番地 1 (財部保健福祉センター内)
TEL:0986-72-0460・0480 FAX:0986-72-0425
E-mail:sohokubu-shakyo@dream.ocn.ne.jp
情報紙「手と手」は、本会のホームページでもご覧になれます。
URL:<http://soo-shakyo.or.jp/>

この情報紙は、地域住民の皆様からの社会福祉協議会費を財源に発行しています。

新年のご挨拶

会長 市吉 幸二



明けましておめでとうございます。

少子高齢化と人口減が加速する中、要支援者に寄り添い、見守り活動など地域福祉充実のためご尽力いただいた多くの皆様方に衷心よりお礼申し上げます。併せて順調な運営が出来ましたことを深く感謝申し上げます。

平成の時代もあと4か月となり、5月からは新しい元号の時代が始まります。

昭和の時代は、戦争、敗戦、苦難に満ちた中で、国民が一九二〇年になって戦後復興に取り組み、平成の時代にバトンタッチされました。

平成の30年間を振り返りますと大型台風、集中豪雨、地震、火山噴火、津波等未曾有の自然災害が多く発生、また経済成長する中、株価の暴落、リーマンショックや金融機関の倒産などもあり、バブル崩壊も経験することになりました。地下鉄サリン事件もありました。

最も変化発展したのは、インターネットや携帯電話などの情報化社会ではないでしょうか。昔の農耕社会から次々に発展し産業革命が進み、いまや情報革命とも言われています。近い将来「5G」と呼ばれる第5世代移動通信システム時代となり車の自動運転・産業用ドローン・遠隔医療・農業センサー等高度な開発が期待されています。

日本の人口も平成20年がピークで、70〜80年後は現在の半分程度と予想されています。少子高齢化と人口減少で社会の構造が大きく変貌すると思われます。特に労働可能人口の減少は、外国人労働者を積極的に受け入れる政策への変化を迫られています。深刻な人手不足に直面している日本で127万人の外国人労働者との共生をどう進めるかも課題となりそうです。

このことは介護事業に関わる社会福祉法人にとっても大きな関心事となっております。

曾於市の高齢化率は現在約40%、人口減少率も県内では高く推移しています。この現象はあとしばらく続くと思われています。

核家族化が進み、高齢で独居の世帯も増加し地域社会とのつながりも薄らぎ困りごと也多岐にわたり、中には相談する人も無く一人で我慢して耐えている人もいると思っています。本当に困っている人に気づき、要支援者の「悩み苦しみ」の思いに傾聴頂き、心の痛みを少しでも和らげるため市民の皆様方にも是非関心をもって地域福祉にご理解頂きたいと願っております。

曾於市社会福祉協議会は、平成30年4月から曾於市地域包括支援センター事業を曾於市から受託し、相談窓口としての機能強化を図ることが出来ました。また福祉活動充実の一環として昨年、権利擁護センターの開所、福祉バスの運行開始、福祉教育の強化等に取り組んでおります。

今後も、住民同士の支え合いを後押しする体制づくりへの支援や地域での課題解決への支援、在宅医療介護の連携強化等時代に即応した事業を展開して参ります。

亥年でも猪突猛進でなく、地に足を付け着実な福祉活動に努めてまいりますので今後ともご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



赤い羽根共同募金イベント募金活動に参加して

11月11日「そお市民祭」会場において、末吉中学校の生徒14名と先生1名が、赤い羽根共同募金活動を行いました。暑い中での活動になりましたが、大きな声で1時間にわたって取り組んでいただきました。参加していただいた生徒、先生に感謝申し上げますとともに、募金に協力いただきました皆様にお礼申し上げます。

募金活動に参加された生徒に感想を伺いました。

「募金お願いします。」

私たち末吉中学校生徒会は、第14回曾於市民祭で赤い羽根共同募金活動に参加させていただきました。この募金は、曾於市共同募金委員会を通して県の共同募金会へ送られ、その後、私たちの町を良くするための福祉活動に使われたり、県内の様々な課題を解決するために使われたりするそうです。

皆初めての募金活動ということもあり、呼びかけは緊張と恥ずかしさのせいか、なかなか大きな声を出すことができずにいました。

しかし、だんだん慣れてくると、皆の声が周囲に響きはじめ、次第にたくさんの方々が募金に協力してくださるようになりました。

活動の終わりの方では、たくさんの募金が集まり、とても達成感がありました。私たちが参加させていただいた赤い羽根共同募金が、少しでも多くの方々に役に立つと思うと嬉しいです。今後もこのような活動に、積極的に参加していきたいと思います。

末吉中学校 2年 にわつきの庭月野 ひより



児童・生徒のふれあいボランティア活動事業より

昨年度から、檉小学校は、「児童・生徒のふれあいボランティア活動事業」に取り組んでいます。この事業は、小中高校生が地域でできるボランティア活動に参加するきっかけづくりを目的としています。活動を継続して行くと、10ポイントごとにボランティア活動認定証が交付されます。今回、登校中のゴミ拾いなどの活動を行った5名の児童に、学校を通じてボランティア活動認定証が授与されました。



ボランティアをして^{そお}曾^{まち}於の町をきれいにしたいです。

3年 椎屋 凜さん

気づいたときに、ごみを拾うのは楽しいです。

2年 薄窪 志歩さん



ボランティアをして、道路がきれいになるといいなと思います。

3年 脇迫 拓斗さん



今後も、みんなのためにボランティア活動がんばりたいです。

3年 川崎 琉生さん



ボランティアで^{しろ}ごみを拾うとすっきりします。

2年 永田 愛華里さん

みなさんの今後の活動が楽しみです。興味のある方は、社会福祉協議会へお尋ねください。

長崎県島原市より視察研修

12月1日、長崎県島原市霊丘地区の民生委員11名の方々が、曾於市社会福祉協議会が運営する小規模多機能ホームより愛さかもとに視察研修に来所されました。隣接地の「おろんの館」で事業の説明を行い、地域に住む事業所の運営推進委員お二人も加わり地域との繋がりや実状について、積極的に意見が交わされました。

地域の関わりが活発に行われていることや、利用者様の生き生き過ごされている状況に感銘され、「今後は、民生委員活動の中で住民同士のつながりを強化し、お互いに支えあう地域力を高めていきたい」と感想をいただきました。



皆来館へ大分県豊後大野市民生委員児童委員協議会が視察研修

11月2日、「皆来館」に豊後大野市民生委員児童委員協議会の民生・児童委員8名が視察研修で来所され、皆来館スタッフ、柳迫校区の民生委員3名が研修に参加しました。



「皆来館」では地域活動や見守り活動など様々な活動が展開されていますが、その中で、在宅福祉アドバイザーの活動について質問がありました。自治会に1名以上のアドバイザーを配置し、要援護者の見守りを行い、毎月民生委員に報告書を提出することで状況が把握できること、また、気になる報告がある場合は訪問し、要援護者の声を直接聞いていることに興味をもたれていました。

島原市地区社会福祉協議会研修受入

地域のつながりを再構築するために小地域における福祉活動を強化することが求められています。曾於市社会福祉協議会では10年以上前から小学校区の範囲を基本に校区社会福祉協議会の設立を支援し、各種福祉活動を展開してきました。この活動に注目した島原市地区社会福祉協議会の役員など23名の方々が11月7日に来所されました。曾於市内の26校区社協が設立されてから現在までの活動状況についての説明の後、意見交換を行いました。島原市における地域福祉活動も紹介していただきながら、見守り活動を充実させていくために関係者と連携していくことの大切さをお互いに学ぶよい機会となりました。前回の佐賀市、今回の島原市と曾於市の地域を越えた見守り活動の輪は一層広がりをみせています。



赤い羽根共同募金映画会 「湯を沸かすほどの熱い愛」 上映報告

11月18日（日）に末吉総合センターにおいて、4回目となる赤い羽根共同募金映画会を開催しました。今回の作品は、余命2か月を宣告された母が、絶対にやっておくべきことを決め実行していく中で、家族がより強い絆で結ばれていく笑いあり涙ありの物語でした。

来場された方からは、「こんなにいい映画は久しぶりに観た」「死に方を考えるいい機会になった」などの感想をいただきました。また、大隅シオン舎の皆様には、手作りのパンや焼き菓子などの販売でご協力をいただきました。



この映画会は、福祉教育推進事業の一環で本会が赤い羽根共同募金の助成を受けて開催しました。共同募金運動の趣旨を広く啓発し、映画を通して地域福祉や福祉教育を推進することを目的としています。映画会の開催にあたっては、17名の実行委員の皆様をはじめ、多くの方々に啓発をしていただきました。ご協力ありがとうございました。

映画上映の収益は以下のとおりです。チケットの購入や募金にご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。

映画「湯を沸かすほどの熱い愛」上映報告（2回上映）

チケット販売枚数	売上金額	当日の募金額	曾於市共同募金委員会へ寄付
475 枚	237,500 円	8,695 円	246,195 円

曾於市障がい者レクリエーション大会

12月1日、末吉総合体育館内の武道館にてレクリエーション大会が行われ、ボランティアを含め70名で賑わいました。

今年は参加者手作りの横断幕が会場を温かくしてくれました。参加者の声を取り入れ6種目を行いました。どの競技も皆さん真剣に取り組まれ、声援や歓声もたくさん響いていました。中でも新種目の風船ミニバレーはラリーが続き白熱した試合となり、見ている側も力が入る盛り上がりでした。

最後にお昼ご飯をみんなで食べながら、感想をいただきましたが「希望していた競技ができてうれしかった」「またやりたい」といった声をいただきました。来年はさらにいろんな方が参加できるように工夫し、お互いを認め、支え合う地域づくりを広げていきたいと思ひます。





料 金
 幼児・小学生以下…無料
 中学生…200 円
 高校生・大人…500 円
 ※限定 30 食

次回は
 1/19 (土) 2/16 (土)
 11:30 ~ 14:00

10 月から日本善行会財部支部メンバーと有志者で始められた、まるこ子供食堂さんをご紹介します。場所は曾於市財部町桜馬場の一軒家です。明るいうちの中は、すでに楽しそうに食事をしている人がいらっしました。来ている方にお話を伺うと、「前回から来ている。家族で一か月の楽しみしている。」「子どもが夢中で食べている。」とのことでした。

一つのテーブルを初めて会う方同士が囲み、お茶を汲み合ったり、お話ししたり、いい雰囲気です。「月に 1 回ですが、どなたでも気兼ねなくお越しただいて、楽しくお食事をしていただけたら嬉しい。」とスタッフの方が話されていました。

まるこ子供食堂の方より

まるこ子供食堂は地域の方々のご寄付により運営していきます。食材や調味料等のご寄付をよろしくお願いいたします。

【連 絡 先】 徳丸 090-9578-1673 (開催日の一週間前 17:30 ~ 19:00 対応)

【寄付食材】 野菜、穀物 (お米・麺類・小麦粉など)、保存食品 (缶詰・瓶詰など)、インスタント食品、レトルト、乾物 (のり、豆など)、菓子類、飲み物 (ジュースなど)、調味料、食用油など。



第 1 回子ども食堂連絡会を開催しました

平成 30 年 12 月 10 日 (月) に第 1 回子ども食堂連絡会を財部保健福祉センターにて開催しました。地域のつながりが希薄になりつつある現在、無料または安価で栄養のある食事と温かな団らんを提供するいわゆる「子ども食堂 (子どもに限らず地域住民を対象とするものを含む)」は、全国的に広がりつつあります。

曾於市内でも開設されるようになり、運営者等での情報の共有や顔の見える関係づくりを目的に、曾於市内にある子ども食堂の方々や、保育施設の方々が出席されました。

お二人の方に講演をいただき、森の玉里子ども食堂代表 (鹿児島大学教育学部准教授) の齋藤美保子様より「子どもの貧困の実態と支援について」、そしてかごしまこども食堂・地域食堂ネットワーク代表園田愛美様より「鹿児島県・全国の子どもの地域で支える食の活動について」話しをしていただきました。その後、曾於市の活動の現状と課題について参加者で話し合い、それぞれの思いや悩みを時には講師の方にアドバイスをいただきながら、情報や気持ちの共有が出来たのではないかと思います。

今後も、継続して連絡会を開催し、ネットワークづくり等に取り組んでいきたいと思っています。



園田 愛美 氏



齋藤 美保子 氏

×× お掃除サポート事業 ××

この事業は、曾於市内で暮らす障がいがある方を対象に、年末年始のご自宅の掃除をお手伝いするものです。皆様からご協力いただいた赤い羽根共同募金の一つである歳末たすけあい募金を財源に曾於市社会福祉協議会が助成を受けて事業を行います。平成 23 年度から続いており、今年で8年目を迎えます。申込みの受付開始から数日で上限件数に達するほど好評を得ています。

利用者のお一人、徳石 ハツエさん（財部町）に感想をお聴きしました。

お掃除サポート事業を利用して…

ヘルパーさんから聞いてこの事業を知り、それ以来毎年お願いしています。

庭を眺めて過ごすことが好きなので、窓ガラスはもちろん、サッシまできれいにしていただき、とても感謝しています。あまりにもきれいになるので、鳥が窓ガラスにぶつかることもあります。おしゃべりしながら掃除をしてくださるので、それもまた楽しみになっています。

大変であっても自分でできることは自分でせないかん、それが自分のためでもあるし、他の人や時代に感謝することにつながっていると思います。



徳石 ハツエさん



月野持留地区にイルミネーション点灯

月野校区持留地区ではイルミネーションが年末年始にかけて 10 時ごろまで点灯しています。大工さん、吉川さん、下岡さん、義川さんという有志の方により、地域のために、また、通りを利用する方にも明るい気持ちになってもらえたらと自発的に取り組まれている活動です。遠くには見に行けない高齢の方にも、イルミネーションを楽しんでいただきたいという思いから始まり、年々広がっているところです。

今年は鑑賞会として「まこてみごち会」も開かれ、高齢者をはじめ、地域の方々を招待されました。美しいイルミネーションを見ながら、地域のつながりを深める良い機会にもなりました。地域の方の自発的な行動と気持ちが持留地区の通りを明るく照らしてくれています。





介護保険に関する Q&A

今回は、介護サービス情報の公表制度についてお答えします。

質問

両親が介護認定を受けましたが、地域にどのような介護サービス事業所があるのかわかりません。どうしたら地域の介護サービス事業所の情報がわかりますか？

回答

市役所や居宅介護支援事業所など介護の相談窓口で情報を得ることもできますが、平成 18 年 4 月から介護サービス情報の公表制度がスタートし、都道府県別に介護サービス事業所の「基本情報」、「運営情報」、特色などの情報を、インターネットでも確認できるようになりました。

質問

介護サービス情報の公表制度とはどんな制度ですか？

回答

介護を必要とする利用者やその家族が、介護サービス事業所や施設を比較・検討して適切に選ぶための情報を、都道府県がインターネットにより公表する仕組みです。対象となる介護サービス事業所は、毎年度 1 回、公表すべき事業所の情報を都道府県に報告することになっており、その情報をインターネット上に公表し、誰でも、いつでも閲覧できるようにする制度です。

質問

介護サービス情報公表システムではどのようなことができますか？

回答

情報公表システムでは、次のことができます。

- ①知りたい地域の介護サービス事業所をネット上でいつでも自由に探すことができます。
 - ②複数の介護サービス事業所の情報等を比較検討したり、しおりを付けることもできます。
 - ③家族をはじめ、介護支援専門員などと情報を共有して、サービス利用の相談がしやすくなります。
 - ④「地図から探す」「サービスから探す」「住まい（住所と事業所までの距離）から探す」「条件検索」など、調べたい内容で検索することができます。
 - ⑤インターネットの検索欄で、**介護 公表** と入力すると、「介護事業所・生活支援関連情報 検索 介護サービス情報公表システム」のサイトに繋がります。
 - ⑥パソコンの他、スマートフォンなどでも検索できます。
- ※スマートフォンなどの場合、専用のアプリのダウンロードとなります。

※引用元 厚生労働省 介護サービス情報公表システム パンフレット



地域包括支援センターより

地域包括支援センターには、地域の介護支援専門員をサポートするという役割があります。曾於市地域包括支援センターでは、介護支援専門員としての資質の向上やネットワーク作りを目的に、月 1 回の研修会を開催しています。

内容はケアマネジメント技術に関することや薬剤師や理学療法士等を講師に招いて介護支援専門員に必要な知識について学んでいます。

これからも地域包括支援センターは、地域包括ケアシステム構築に向けて、地域の介護支援専門員をはじめ、医療・介護・福祉それぞれの分野の専門職との連携、ネットワーク作りに努めて参ります。



曾於市地域包括支援センター

住所：曾於市末吉町二之方 2342 番地（そお生きいき健康センター内）

電話：0986-76-8824、FAX：0986-28-8140

※地域包括支援センターでは、専門職（社会福祉士、主任介護支援専門員、保健師）が、高齢者に関する様々な相談を受け付けています。お気軽にご相談ください。

心配ごと相談所開設のお知らせ

と き 毎月第2・第4木曜日（平成30年4月から）9：30～12：00

ところ 【財部】 財部保健福祉センター 【末吉】 末吉中央公民館 【大隅】 大隅中央公民館

開設日	1月24日	2月14日	2月28日	3月14日	3月28日
財 部	児玉・鎌原	上村・棚木原	鎌原・橋本	児玉・柳田	橋本・棚木原
末 吉	田代・吉田	吉田・原田	山内・羽嶋	田代・竹石	羽嶋・原田
大 隅	山口・上門	鮫島・佐伯	上門・大村	山口・鍋山	大村・佐伯



ひとりで悩まないで 弁護士による無料福祉相談窓口

ひまわりの会による無料法律相談

○相談日時及び会場：

会場	財部保健福祉センター	そお生きいき健康センター	大隅弥五郎伝説の里
相談日時	1月17日 13:00～16:00	2月21日 13:00～16:00	3月22日 13:00～16:00

○相談料：無料です。（相談者からはいただいておりません）※1回につき相談時間は30分以内

○申込・受付方法：事前に予約が必要です。

ひまわりの会 事務局 代表弁護士 山口 政幸

☎ 099-227-0041（受付：平日9時～17時） 鹿児島市山下町12番17号2階

藤尾法律事務所による無料法律相談

○相談日時及び会場：

会場	財部保健福祉センター	大隅弥五郎伝説の里
相談日時	毎月 第2火曜日 13:00～15:00	毎月 第3火曜日 18:00～20:00

○相談料：無料です。（相談者からはいただいておりません）※1回につき相談時間は30分以内

○申込・受付方法：先着順、事前電話予約可

弁護士法人 大隅広域ディフェンダー 藤尾法律事務所 末吉支所

☎ 0986-51-9830 曾於市末吉町本町1-4-5



社会福祉相談援助実習を終えて…



曾於市社会福祉協議会がいかに事業を展開し、曾於市住民の皆様とよりよい地域づくりを成しているのか現場を通して学ぶことが出来た。理念に掲げている人と人のつながりを大切にする姿勢を今後の目標とし、社会福祉士の立場として曾於市を盛り上げていきたい。
九州保健福祉大学 通信教育部 黒石 誠人

社会福祉士の資格を取る為、社会福祉援助技術現場実習として、曾於市社会福祉協議会で23日間の実習を行わせていただきました。

実習を通して利用者の方との信頼関係を作ることが1番大切だということを学びました。その上で利用者さんの事や、生活ぶりを観察することが大事であることも学びました。

実習に取り組む中で、授業では気づけなかった様々なことに気づくことができ、とても勉強になりました。

23日間という期間でしたが、社協の職員の方々、同行を許可していただいた利用者の方々ありがとうございました。
日本文理大学 経営経済学部 平原 陽来



曾於市社協で実施されている様々な事業に参加し、社協の役割や住民主体の地域福祉の推進などについて多くを学ばせていただきました。今回の実習で経験したことを私自身の日常業務に活用し、少しでも地域福祉の推進に貢献できるよう努力したいと思います。
九州保健福祉大学 通信教育部 迫 孝幸

この度は九州保健福祉大学通信教育部の学生2名が相談援助実習にてお世話になり、ありがとうございました。実習生2名共に、地域の皆様、職員の皆様のご協力の元、最後まで生き生きと実習を行うことができ、また、社会福祉協議会への理解を深めることができた事で、大変有意義な実習になった事と思います。この実習を通して学び得た事を今後の実践に生かし、社会福祉士として地域の為に活躍できる事を期待しております。

九州保健福祉大学 通信教育部 実習指導教員 毛利 美希



たくさんの善意に感謝いたします。

本会では、この善意を市民の皆様の福祉向上のために大切にに使わせていただきます。
 なお、本紙への掲載につきましては、寄附者の承諾を得てご希望どおりに寄附者名簿を掲載しております。

香典返し寄附金(敬称略)(平成30年11月1日～12月31日)

財 部 地 区	末 吉 地 区	大 隅 地 区
川 添 満 司 堤	前 原 シ ズ 掛 上	萩 原 ヒロ子 中大谷
年 神 健 一 吉ヶ谷	下 中 千鶴子 田 村	西 本 栄 子 西 鍋
小 島 良 子 城 山	重 久 紀 子 田方西	柴 田 廣 中 園
西 郷 範 夫 粟 谷	和 田 シヅ子 森 田	岩 本 美 咲 折 田
粟 谷 啓 二 谷ヶ峯	徳 増 徳 雄 内 堀	永 吉 恵 子 あけぼの
津 曲 侑 古井東	丸 山 明 陣之山	堀ノ内 正 實 上坂元
愛 甲 美代子 蓑 原	田 淵 憲 子 高岡下	小 濱 タミ子 中森園
	胡摩窪 シマ子 胡 摩	久米村 悦 子 大 路
	小 松 京 子 小中野	森 山 清 美 上長江
	後 迫 輝 利 後 迫	米 満 俊 郎 日之出町
	向 井 光 子 向江東	山之内 利三郎 岩川本町
	匿名 2件	福 丸 キ ヨ 里 脇

一般寄附金品(敬称略)
 (平成30年11月1日～12月31日)

財 部 地 区
財部町社交ダンス部 10,000 円
前田 重治 都城市 8,000 円
末 吉 地 区
末吉中学校昭和 39 年卒古希同窓会 5,101 円
大園 征郎 5,000 円
匿名 1 件
大 隅 地 区
(有)堀切建設 代表取締役 堀切俊夫 100,000 円
大保 幸雄 (故)大保 シヅエ 大川原 4,319 円

物品寄贈(敬称略)(平成30年11月1日～12月31日)

株式会社宮崎ヒューマンサービスより 車椅子の寄贈

この寄贈は、昨年4月に宮崎ヒューマンサービスが「手と手がつながる地域福祉応援チャリティコンサート」を開催され、その入場料収入の全額で車椅子を購入し、宮崎県を中心に鹿児島県、熊本県、大分県の社会福祉協議会に寄贈されたもので、本会にも車椅子1台を寄贈してくださいました。



編 集 後 記

新年、明けましておめでとうございます。

平成最後の年越しは皆さんどのように過ごされましたか？

平成30年を振り返ると全国的に記録的猛暑に見舞われ、また各地で災害も多く発生した1年だったと思います。そんな中「スーパーボランティア」の活躍が注目を集め、流行語にノミネートされるほどの社会現象を起こしました。連日のボランティアさんの活躍や被災者の気持ちをテレビを通して拝見することで災害時や緊急時こそ地域の絆や一人一人の思いやりの心が試されることを実感しました。

私も日頃のご近所付き合いや人との接し方など改めて自分自身を見つめ直し、一年間を過ごしていきたいと思います。

M・Y